

山梨県上野原市
市内遺跡発掘調査報告書 4

2023

上野原市教育委員会

例 言

1. 本書は、山梨県上野原市で平成30年（2018）度から令和4年（2022）度までに実施した埋蔵文化財試掘調査等の報告書である。
2. 調査は上野原市教育委員会が実施した。報告書作成時の調査組織は次のとおりである。
教育長 土屋すみじ
事務局 社会教育課長 織田輝彦
社会教育担当リーダー 主幹 川田利一
社会教育担当 副主幹 小西直樹（調査、報告書の編集・執筆・写真撮影担当）
参加者 公益社団法人東部広域シルバー人材センター会員の皆様
3. 上野山の塚の調査に当たっては、次の方々にご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。
現地指導：末木健氏（前山梨県考古学協会会長）、土生田純之氏（専修大学教授）
出土遺物（陶磁器）分析：内野正氏（東京都埋蔵文化財センター）
現地ドローン撮影：小坂井孝修氏（東京都埋蔵文化財センター）
4. 上野山の塚の地形測量（レーザ計測）を昭和測量株式会社に委託した。
5. 整理作業は市立旧平和中学校で行った。
6. 本書にかかわる出土品・記録図面等は、一括して上野原市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 本書に転載した地図は、昭和56年国土地理院の承認を得て上野原町が調整した地形図を使用した。
2. 挿図の縮尺は図版スケール等に明記した。
3. 試掘溝の土層断面図は模式図である。
4. 位置図に示した遺跡の範囲は埋蔵文化財包蔵地台帳を基礎としており、随時更新されている。

目次

例言 凡例

第Ⅰ章 上野原市と遺跡の概要	1
第Ⅱ章 遺跡調査	
1 開発工事に伴う調査	4
(1) 狐原Ⅱ遺跡	4
(2) 根本山遺跡	5
(3) 根本山遺跡	6
(4) 鶴島東区遺跡	7
(5) 上野原字寺畑	8
(6) 上野原字下新町	10
(7) 上野原字桐ノ木	11
(8) 上野原字関山	12
(9) 上野原字沓掛	13
(10) 松留字下馬船	14
2 上野山の塚調査	15

第I章 上野原市と遺跡の概要

第1節 上野原市の位置と遺跡調査

上野原市は山梨県東端の県境に位置する。地理的な要因から、産業や文化・日常生活全般において古くから関東西部との関係が強い。近世には江戸・甲府・信州を結ぶ甲州街道が整備され、相模川の水運とともに交通の要衝地として栄えた。地勢は関東山地や丹沢山塊に囲まれた山間地域で、桂川（相模川）や支流沿いに河岸段丘地形が点在している。

市教育委員会では、周知の埋蔵文化財包蔵地（市内163ヶ所）における開発事業や、面積が1,000㎡を越すなど市開発行為指導要綱の適用を受ける開発事業については、遺跡の有無や遺存状況を確認するために試掘調査を行っている。この結果をもとに遺跡保存と開発との調整を図り、遺跡保存が困難となった場合は記録保存を目的とした発掘調査を実施している。

第2節 遺跡の概要

縄文時代の遺跡は、河岸段丘上や丘陵裾部に多数分布する。草創期の遺物と見られる有舌尖頭器は、仲間川流域の南大浜遺跡などで散発的に出土している。早期では市街地近くの新井遺跡で押型文土器1個体が採集されている他、山間地では竪穴住居址や炉穴などの居住域から成る新屋原遺跡や、落とし穴や多数の磨石類が出土したことから狩猟や動植物の加工場と考えられる穴沢遺跡がある。中期の遺跡数は多く、市街地近隣では、大堀Ⅱ遺跡・関山遺跡・狐原遺跡・南大浜遺跡などで竪穴住居址や多数の土器・石器が発掘されている。後期の遺跡では鶴川流域の原郷原遺跡・用竹殿村遺跡・松留館跡などがあり、多数の土器が出土している。中期末から後期前半に比定される敷石住居址の検出例も多い。

弥生時代の遺跡は数・調査事例ともに少ないが、再葬墓に用いたと見られる中期の壺が南大浜遺跡で発掘されている。

古墳時代の遺跡は、桂川北岸の狐原遺跡などで集落址が発掘されている。狐原遺跡は桂川流域の拠点集落と捉えられ、前期に少数の竪穴住居が出現し、後期に一辺7m前後の大型竪穴住居が急増する。扇山南麓地域では畑の耕作中に横穴式石室1基が発見され、西ノ原古墳と命名された。古墳の詳細や造営基盤となった集落の実態は不明確である。

奈良・平安時代の遺跡は、市街地と近隣にあたる狐原遺跡・上野原小学校遺跡・大間々遺跡などで集落址が発見されている。この3遺跡は古墳時代後期から継続し、現在の庁舎一帯にあたる大間々遺跡では竪穴住居址10軒・掘立柱建物址4棟・大型柱穴列等や銅製鉸具・鉄鏃等が出土した。市街地一帯は古代の甲斐国都留郡古郡郷に比定され、初期の都留郡衙があった地域と考えられている。

中世の遺跡では、市街地の南に内城館跡があったが、中央自動車道の造成によってほとんど残されていない。この館は平安末期から鎌倉時代、八王子横山党一派の古郡氏が居館として造営し、その後は天正10年（1582）まで甲斐武田氏のもとで上野原地域を支配した加藤氏の居館となったと伝えられる。対岸の山稜には複数の砦が分布し、このうち長峰砦址では発掘調査で郭や堀切が検出されている。

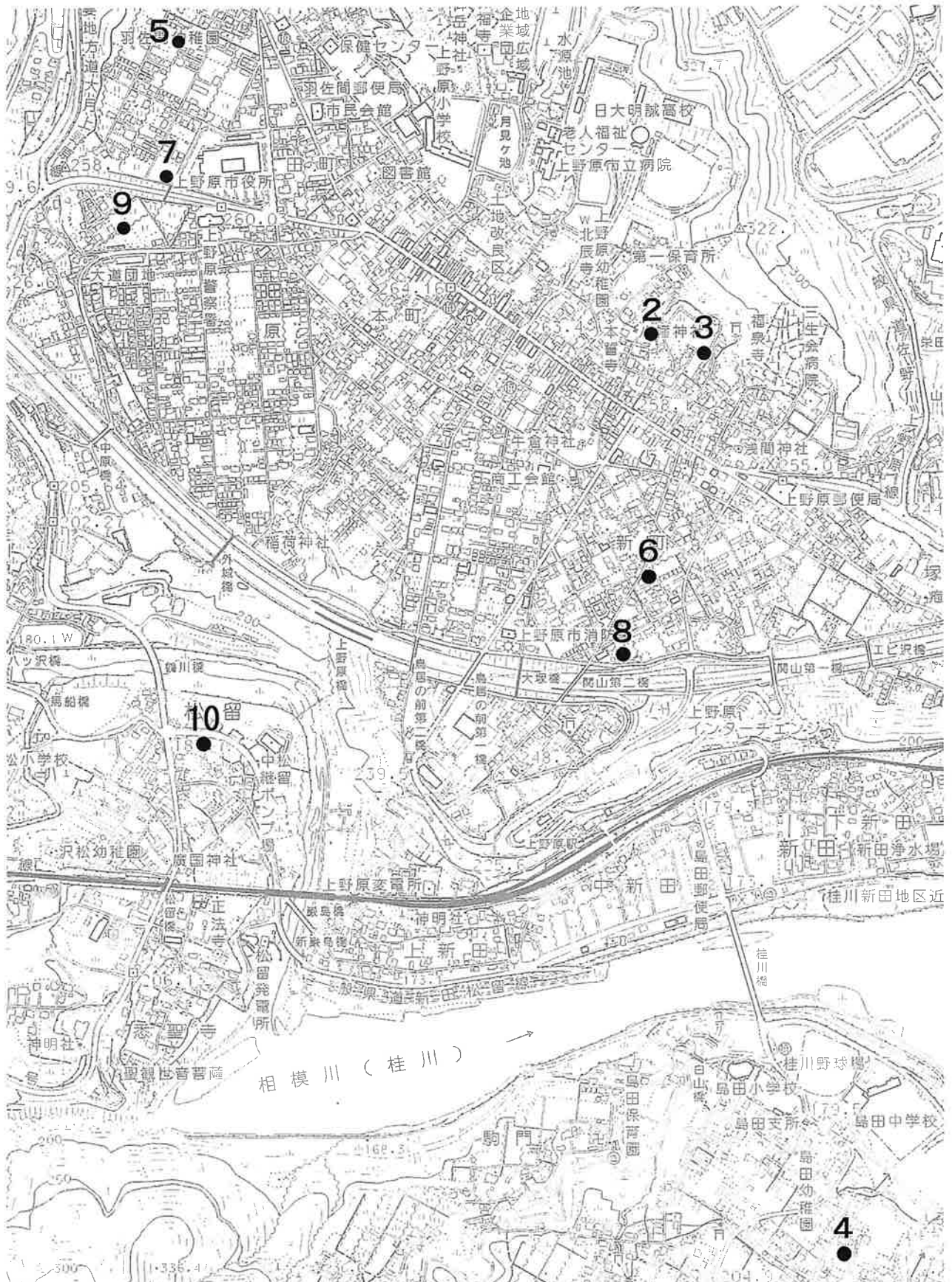


上野原市の位置図



1 狐原Ⅱ遺跡

調査地位置図 (1/10,000)



2 根本山遺跡 3 根本山遺跡 4 鶴島東区遺跡 5 上野原字寺畑 6 上野原字下新町
7 上野原字桐ノ木 8 上野原字関山 9 上野原字沓掛 10 松留字下馬船

調査地位置図 (1/10,000)

第Ⅱ章 遺跡調査

第1節 開発工事に伴う調査

(1) 狐原Ⅱ遺跡

調査目的 工場建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原 79-1

調査期間 平成 30 年 (2018) 7 月 26 日

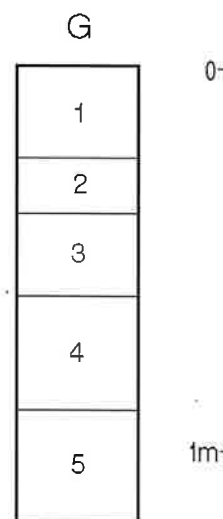
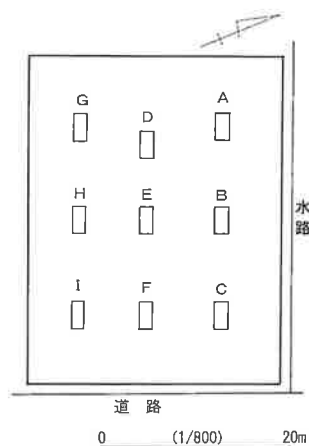
調査面積 47㎡ (対象面積 951㎡)

概 要

狐原Ⅱ遺跡は桂川北側の河岸段丘に位置する。これまでの調査で縄文時代中期及び古墳時代後期から奈良・平安時代の集落址等が見つかっている。今回の調査地点は遺跡北端の平坦な草地 (標高約 232 m) である。トレンチ 9ヶ所を重機と人力で掘削したところ、碎石混じりの整地層下に旧表土・黒褐色土・にぶい褐色土・ローム層が順に堆積していた。遺構・遺物はなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



調査地近景



- 1 碎石混じりの表土
- 2 にぶい褐色土 旧表土。粘性弱く、締まりやや強い。橙・黒色スコリア少量。
- 3 黒褐色土 粘性、締まりやや弱い。黒色スコリア多い。橙色スコリア少量。
- 4 にぶい褐色土 粘性、締まりやや強い。細粒 (1~2mm) の橙色スコリア多い。
- 5 褐色土 ローム。粘性、締まり強い。細粒 (1~2mm) の橙色スコリア多い。

調査区位置図 (1/5,000)、平面・土層図

(2) ^{ねもとさん}根本山遺跡

調査目的 個人住宅建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原 1395

調査期間 平成 30 年 (2018) 11 月 7 日

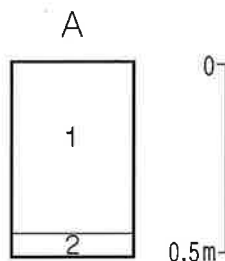
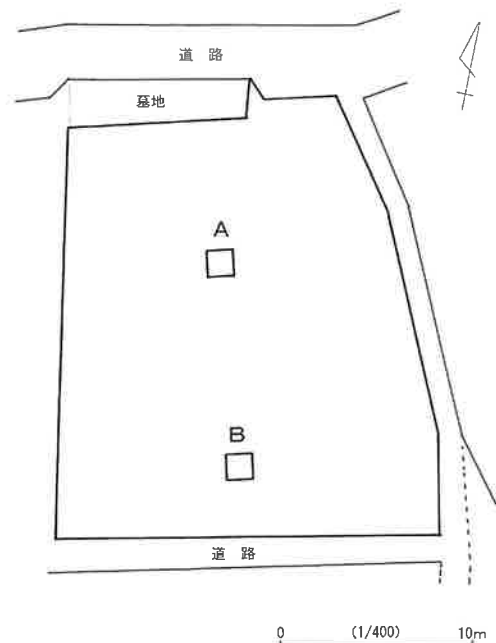
調査面積 4.5㎡ (対象面積 422㎡)

概 要

根本山遺跡は市街地背後の根本山 (標高 332m) 南麓に位置する。遺跡は縄文・平安時代の遺物散布地で、これまでの調査で奈良時代の竪穴住居址等が見つまっている。今回の調査地点は遺跡南端の緩傾斜地 (標高約 274 m) で、近くに八幡神社がある。トレンチ 2ヶ所を人力で掘削した結果、耕作土直下がハードローム層で、ローム面は随所で耕作により攪乱されていた。遺構・遺物はなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



調査地近景



- 1 暗褐色土 表土 (耕作土)。粘性、締まり弱い。下位にハードローム塊を疎らに含む。
- 2 褐色土 ハードローム。粘性、締まり強い。暗灰色・橙色スコリア (1cm以下) 多い。

調査区位置図 (1/5,000)、平面・土層図

(3) ねもとさん 根本山遺跡

調査目的 個人住宅建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市上野原 1364-1, 1364-3, 1364-20, 1364-21, 1367-7

調査期間 令和4年(2022)4月19日

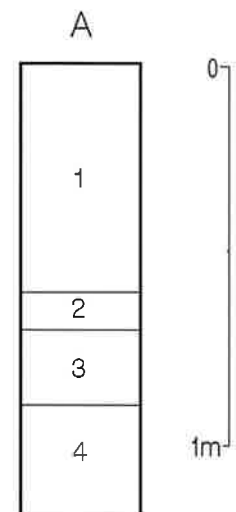
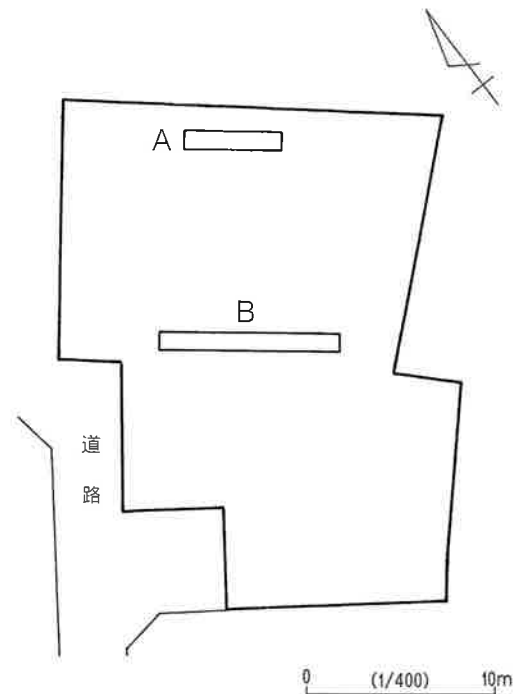
調査面積 15㎡(対象面積 350㎡)

概要

調査地点は遺跡南端の緩傾斜地(標高約 267 m)で、南側隣接地では平成 10 年の試掘調査で縄文土器・土師器等及び時期不明の土坑群が見つかった。今回の調査では擁壁設置予定地でトレンチ 2 本を設定し、重機で掘削した。結果、基本層序は表土・黒褐色土・ローム再堆積土・ローム層であったが全般に大きく攪乱され、現代ゴミが深くまで混在していた。遺構・遺物はなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



調査地近景



- | | |
|----------|----------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 表土。粘性、締まり弱い。植物の根が繁茂。 |
| 2 黒褐色土 | 粘性、締まりやや強い。 |
| 3 にぶい褐色土 | 粘性、締まりやや強い。黒褐色土とロームの混合層で緻密さに欠ける。 |
| 4 褐色土 | ローム。粘性、締まり強い。橙色スコリア(5mm以下)やや多い。 |

調査区位置図(1/5,000)、平面・土層図

(4) つるしまひがしく
鶴島東区遺跡

調査目的 個人住宅建設工事に伴う試掘調査

調査地 上野原市鶴島字反保 1807-1

調査期間 令和2年(2020)10月29日

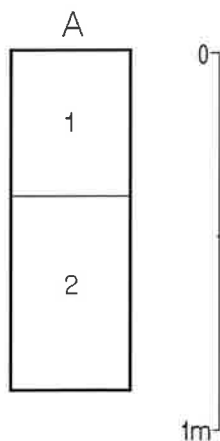
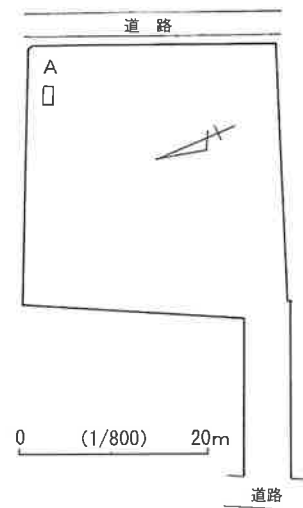
調査面積 2㎡(対象面積107㎡)

概要

鶴島東区遺跡は桂川南岸の河岸段丘に位置し、縄文時代の遺物散布地である。今回の調査地点は遺跡西端の平坦地で、養魚場跡地である(標高約193m)。浄化槽予定地を人力で掘削したが、現代ゴミを含む攪乱が深くまで及び、工事で影響が及ぶ遺跡はないものと判断した。



調査地近景



- 1 黄灰色土 表土。粘性、締まり弱い。現代ゴミ(生木・コンクリート片等)を含む攪乱層。
- 2 暗褐色土 粘性強く、締まりやや弱い。現代ゴミ含む攪乱層。少なくとも深さ1m続く。

調査区位置図(1/5,000)、平面・土層図

(5) 上野原^{てらばなけ}字寺畑

調査目的 宅地造成工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原 4012-1～7、4008-4～7

調査期間 平成 30 年（2018）6 月 28 日

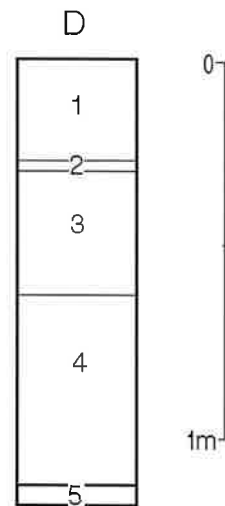
調査面積 8㎡（対象面積 1,330㎡）

概 要

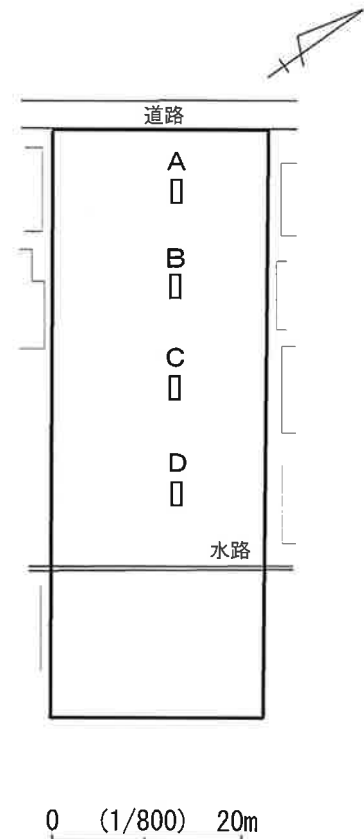
調査地点は鶴川東岸の河岸段丘面（標高 269 m）で、南 40m ほどで縄文中期の土器・石器集中部が検出されている（寺畑遺跡）。重機でトレンチ 4ヶ所を掘削した結果、基本層序は表土・旧水田の鋤床・暗褐色土・ローム層で、ローム層までの深さは 120cm であった。遺物は暗褐色土下位で縄文土器 1 点が出土した（図・写真は次頁）。土器は深鉢で縄文中期中葉に比定される。逆位で出土し、掘り方は確認されなかった。他に遺物や遺構はなく、工事で影響が及ぶ遺跡はないものと判断した。



調査地近景



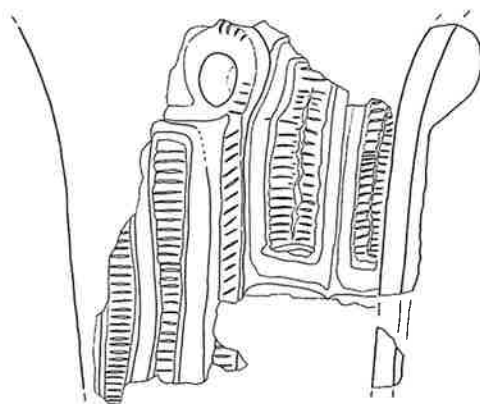
- 1 暗褐色土 表土。粘性、締まり弱い。
- 2 鉄さび色 旧水田床土。
- 3 暗褐色土 粘性、締まり弱い。橙色・黒色スコリア疎ら。
- 4 暗褐色土 粘性、締まりやや強い。細粒橙色スコリア多い。炭化粒疎ら。
- 5 褐色土 ソフトローム。



調査区平面・土層図

出土遺物

深鉢胴部。現存高15cm。隆帯と沈線による縦長の長方形区画に波状沈線や短沈線を施す。円形突起が付く。胎土は脆く、金・黒雲母や石英を含む。焼成は良い。色調は外面がにぶい赤褐色、内面は灰褐色。縄文時代中期中葉（藤内式期）に比定される。Dトレンチ出土。



0 (1/3) 10cm



(6) 上野原^{したしんまち}字下新町

調査目的 宅地造成工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原 649、650

調査期間 令和元年（2019）5月28日

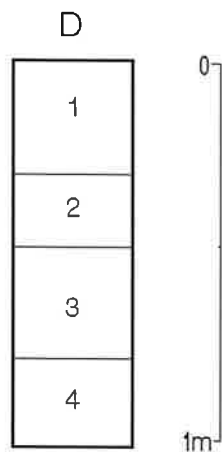
調査面積 33㎡（対象面積 1,010㎡）

概要

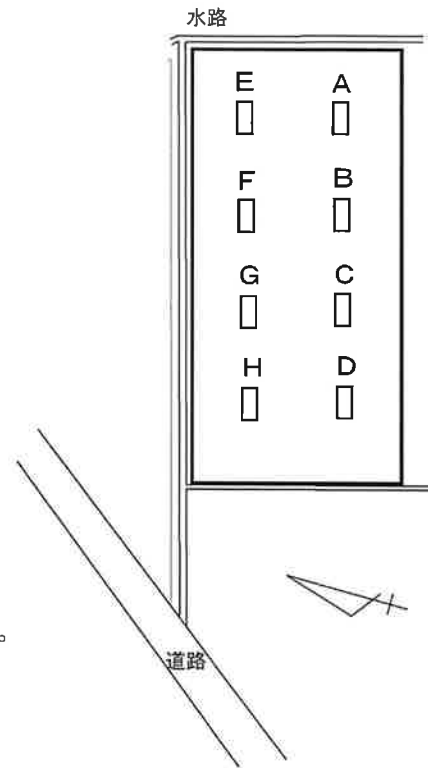
調査地は河岸段丘上の市街地一角である。平坦な畑地（標高約 253 m）でトレンチ 8ヶ所を重機で掘削した。調査の結果、基本層序は耕作土・黒褐色土・にぶい褐色土（ローム漸移層）で、にぶい褐色土までの深さは概ね 50cm であった。縄文時代中期後葉（曾利期）の条線文土器の細片数点が散発的に出土したが、遺構はなかった。このため、工事で影響が及ぶ遺跡はないものと判断した。



調査地近景

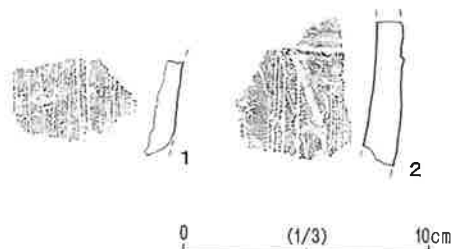


- 1 にぶい褐色土 表土。粘性、締まり弱い。
- 2 黒褐色土 粘性やや強く、締まり弱い。黒色スコリア疎ら。
- 3 にぶい褐色土 ローム漸移層。粘性、締まり強い。橙色スコリア（3mm以下）やや多い。
- 4 明るい褐色土 ソフトローム層。粘性、締まり強い。橙色スコリア（3mm以下）やや多い。



調査区平面・土層図

0 (1/800) 20m



出土遺物

(7) 上野原字桐ノ木^{きりのき}

調査目的 宅地造成工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原 3977, 3978

調査期間 令和2年(2020)5月27日

調査面積 25㎡(対象面積1,007㎡)

概要

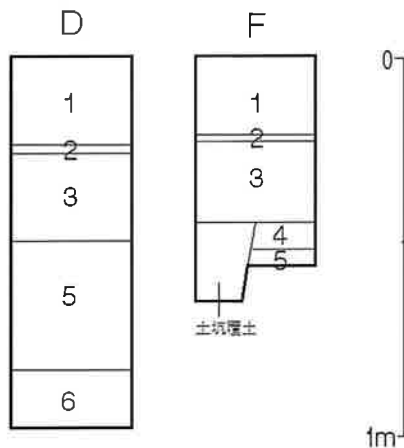
調査地は河岸段丘上の市街地一角で、平安時代の集落址が検出された大間々遺跡に隣接する。現況は草地(標高約264m)。トレンチ6ヶ所を重機で掘削した。調査の結果、基本層序は表土・旧水田の鋤床・黒褐色土・暗褐色土・ローム層で、黒褐色土は断続的であった。ローム層までの深さは約90cmである。円形土坑1基を暗褐色土上面で検出した。土坑は上端直径120cm、掘り込み面から底までの深さ20cmで、覆土は黒褐色土を基調とする単層であった。遺構の時期は出土遺物がないため不明確である。他に遺構・遺物はなく、工事で影響が及ぶ遺跡はないものと判断した。



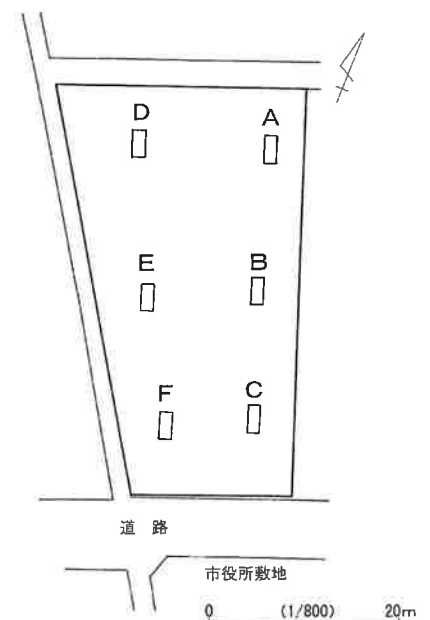
調査地近景



土坑検出状況



- | | | |
|---|--------|--|
| 1 | 暗褐色土 | 表土(耕作土)。粘性、締まり弱い。 |
| 2 | 橙褐色土 | 旧水田床土。締まり強い。 |
| 3 | にぶい褐色土 | 旧表土。粘性、締まり弱い。 |
| 4 | 黒褐色土 | 粘性、締まりやや強い。橙色・黒色スコリア(3mm以下) やや多い。 |
| 5 | 暗褐色土 | 粘性、締まりやや強く、下位ほど硬い。細粒(2mm以下) 橙色スコリアやや多い。ロームとの境は漸移的。 |
| 6 | 橙色土 | ローム。粘性、締まり強い。橙色スコリア(2~3mm) やや多い。 |



調査区平面・土層図

(8) 上野原^{せきやま}字関山

調査目的 宅地造成工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原 895, 896, 896-1, 896-4,
896-5, 896-6, 896-11

調査期間 令和2年(2020)8月5日

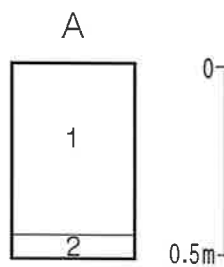
調査面積 34m²(対象面積 1,256m²)

概要

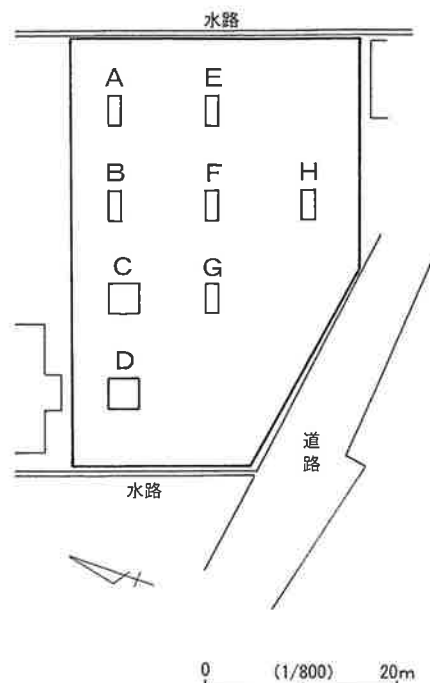
調査地は河岸段丘上の市街地一角で、現況は畑地(標高約 252 m)であった。トレンチ 8ヶ所を重機で掘削した結果、耕作土直下がローム層であった。遺構・遺物はなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



調査地近景



- 1 暗褐色土 表土(耕作土)。粘性、締まり弱い。ローム塊を疎らに含む。
- 2 褐色土 ソフトローム。粘性、締まりやや強い。橙色スコリア(5mm以下)やや多い。



調査区平面・土層図

(9) 上野原^{くっかけ}字沓掛

調査目的 集合住宅建設工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市上野原 3877, 3878, 3888, 3889, 3874-2 の一部

調査期間 令和4年(2022)4月7日

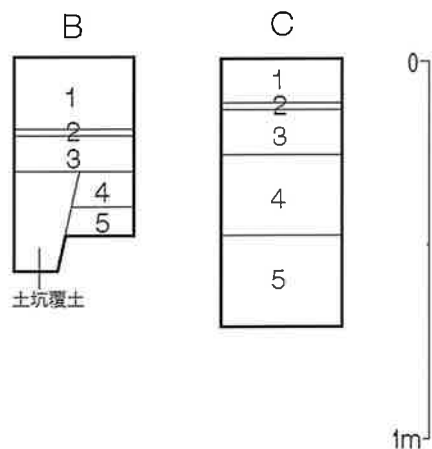
調査面積 9㎡(対象面積1,000㎡)

概要

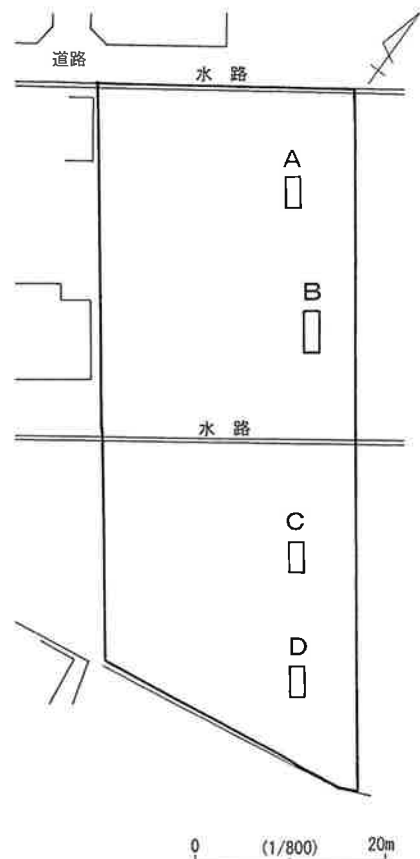
調査地は河岸段丘上の市街地一角で、現況は畑地(標高約260m)であった。建物予定地にトレンチ4ヶ所を人力で掘削した結果、基本層序は耕作土・旧水田の鋤床・黒褐色土・暗褐色土・ローム層で、ローム層までの深さは約80cmである。溝状土坑1基の一部を暗褐色土上面で検出した。土坑は上端幅73cm、掘り込み面から底までの深さ30cmで、覆土は黒褐色土を基調とする単層であった。出土遺物がなく遺構の時期は不明確である。他に遺構・遺物がなかったため工事で影響が及ぶ遺跡はないものと判断した。



調査地近景



- | | |
|----------|---|
| 1 暗褐色土 | 表土(耕作土)。粘性、締まり弱い。 |
| 2 橙褐色土 | 旧水田床土。締まり強い。 |
| 3 暗褐色土 | やや硬質。 |
| 4 黒褐色土 | 粘性強く、締まり弱い。黒色スコリア(5mm以下)やや多く、細粒の橙色スコリア疎ら。 |
| 5 におい褐色土 | ローム。粘性、締まり強く、下位ほど硬い。橙色スコリア(2mm以下)多い。 |



調査区平面・土層図

(10) 松留字下馬船

調査目的 宅地造成工事に伴う遺跡有無確認の試掘調査

調査地 上野原市松留字下馬船 332-1 他

調査期間 令和元年（2019）9月3日

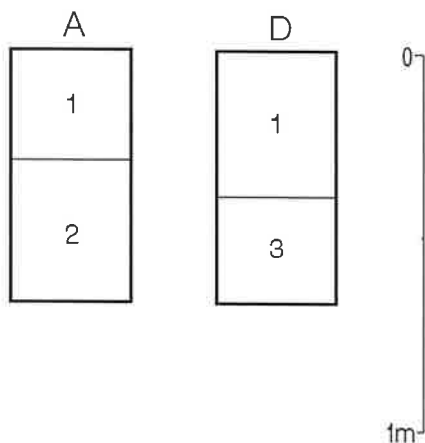
調査面積 30㎡（対象面積 1,626㎡）

概要

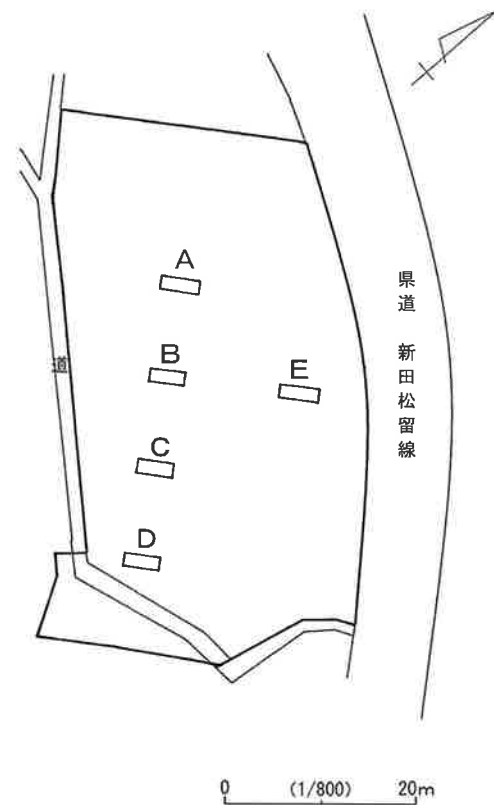
調査地は鶴川南岸の低位河岸段丘で、現況は平坦な草地（標高約 185 m）であった。土地所有者によると、現地は昭和 23 年頃に緩やかな傾斜地を削って開田したが、多量の川原石が出て工事は難渋したという。畑地でトレンチ 5ヶ所を重機で掘削した結果、表土直下に地山由来の砂礫層が堆積していた。遺構・遺物はなく、工事予定地に遺跡が残存する可能性は低いものと判断した。



調査地近景



- | | |
|-------------|---|
| 1 暗褐色土 | 表土。粘性、締まり弱い。細・中礫多い。 |
| 2 にぶい褐色の砂礫層 | 細・中・大礫多い。A～C トレンチの表土直下で確認した。 |
| 3 暗褐色土 | 粘性強く、締まりやや強い。細・中・大礫多い。D・E トレンチの表土直下で確認した。 |



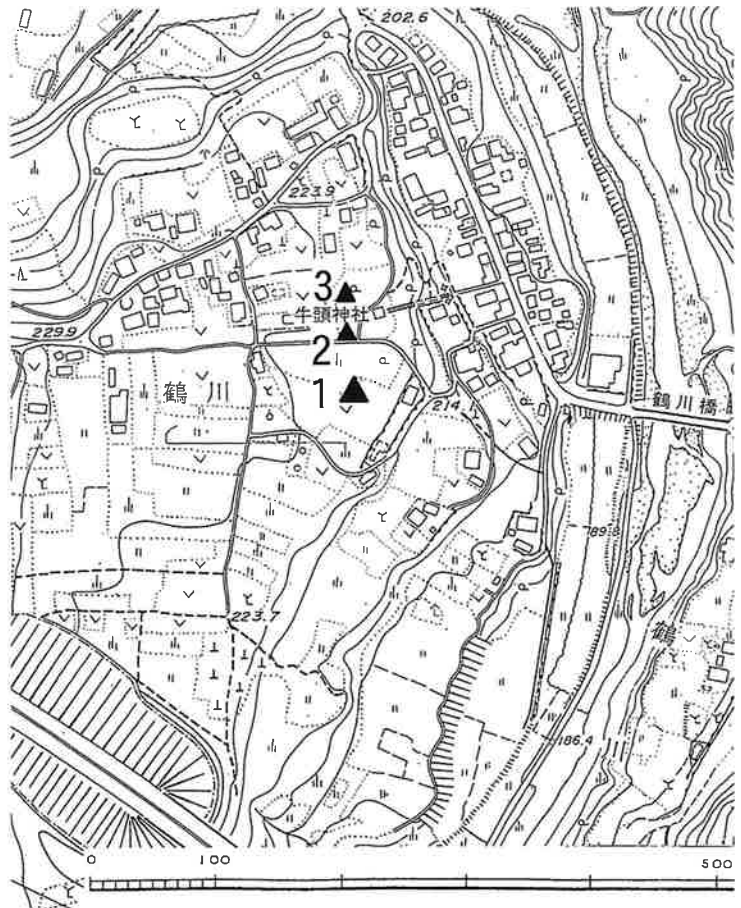
調査区平面・土層図

第2節 上野山の塚

(1) 塚の立地と現況

調査対象の塚は鶴川西岸の低位河岸段丘面に位置し、所在地は上野原市鶴川字上野山である。塚は旧甲州街道の鶴川宿背後の高台にあり、鶴川神社（旧村社）近くに現在3基が確認されている。

最大の塚（1）は上野原市鶴川222番地の畑に位置し、昭和48年遺跡台帳によると14m四方で高さ2.3mである。他の2基は極めて小規模で、いずれも墓地の一角にある¹。このうち塚（1）の北方約50mの墓地にある塚（2）は、拳大以下の礫が直径約4mの範囲に最大1.2mの高さで集積され、上面に古木の切り株がある。この塚は昭和48年には墓地造成で破壊され、原型を留めていなかったという²。一方、塚（1）の北方約90mにある塚（3）は、篠ヤブで覆われて形状は不明確だが、表面に礫が散在している。塚上に複数の樹木が成育し、丸い樹冠は遠方からも視認できる。3基の塚は未調査だったが、後述のとおりこれまで上野山古墳群と名付けられ、積石塚古墳といわれていた。



塚（1）

これまで積石塚古墳（14m四方、高さ2.3m）といわれ、今回試掘調査を実施。畑にあり、地番地籍図で塚の範囲が分筆されている。



塚（2）

上野原町誌に小型の積石塚古墳（長さ6.2m）とある。墓地の一角にあり、地番地籍図で塚の範囲は分筆されていない。



塚（3）

遺跡台帳に小型の積石塚古墳（長さ6.2m）とある。古い墓地の一角にあり、地番地籍図で塚の範囲が分筆されている。

塚の位置図と現況

註1 墓地には文政12年や明治16年の墓碑や地藏尊等の古い石造物が混じる。

註2 当時調査に関わった長谷川孟氏よりご教示。

(2) 塚をめぐる歴史的経緯

塚の周辺では、同じ高台上に上野山Ⅰ遺跡(縄文時代後期)、上野山Ⅱ遺跡(縄文時代中期及び弥生時代後期)が確認されているが、古墳時代の遺物散布地は未確認である。

塚がある地域は近世まで鶴川村に属した。鶴川村は甲州道中の宿場「鶴川宿」を擁し、村の生業は「男は往還稼または薪をとる、女は蚕をいたし機を織る」(『宿村大概帳』)といわれた。文化3年(1806)鶴川村絵図を見ると、塚がある上野山は一带が畑で、塚に類する表記はない(次頁に図)。『甲斐国志』では上野山背後の丘陵地「鳶ガ崎」に多数の古塚があり、矢尻が出土することから戦死者を埋葬したものだろうと記している¹。

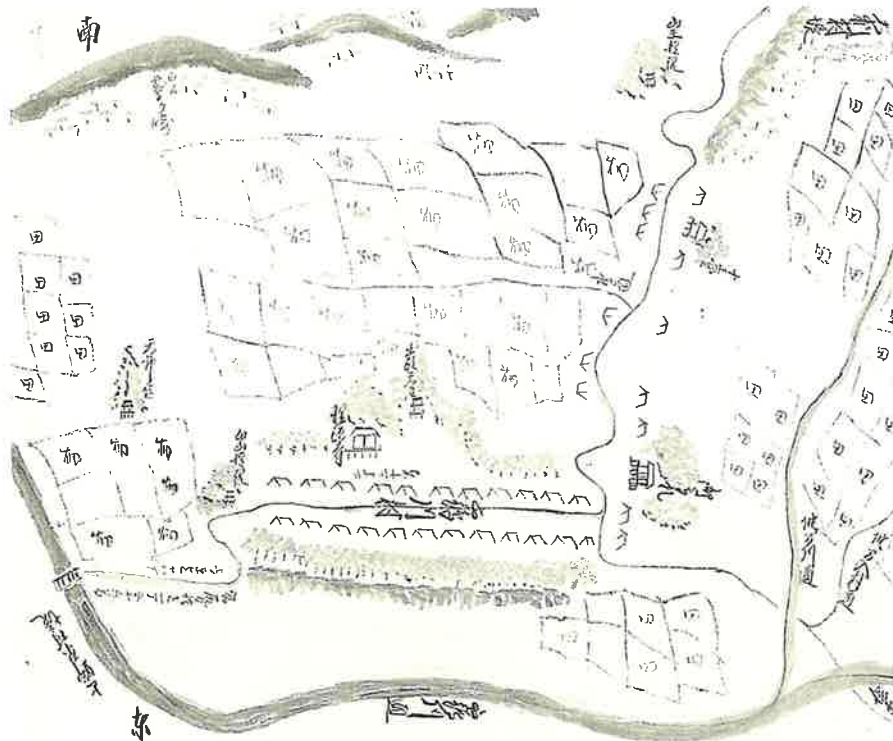
昭和23年(1948)9月～翌年3月及び昭和30年10月～翌年4月、上野山で畑を水田に転換する大規模な耕地整理が行われ、開田面積は延べ7万㎡に及んだ。開田直前の昭和23年3月に撮影された国土地理院の空中写真によれば、耕地の中に今回調査した大型の塚の存在を見て取ることができるが、他に塚状の遺構を確認することはできない(次頁に写真)。古老の話によると、上野山一帯には複数の石塚が散在していたが、田畑の開墾で消失したという。

註1「鶴川ノ西岸鳶ガ崎ヨリ西大柵村ノ内鳶ガ巢ニ至ルマデ凡ソ一里余土人相伝ヘテ古戦場ナリト云フ矢ノ根ナド往々掘り出スコトアリ又古塚アマタアリ蓋シ戦死ノ者埋メシ塚ナルベシ」(『甲斐国志』)。現地は、中央自動車道や工業団地造成で風景が一変しており、残された山林は草木が深く、立ち入り困難な状況である。

(3) 塚の研究史

昭和10年、郷土史研究家の仁科義男氏は自著『甲斐の先史並原史時代の調査』において鶴川地区に古墳の存在を指摘したが、「著名のものにあらず特記すべき事項もなき」として詳細を明らかにしなかった。昭和37年に上野原町教育委員会が作成した『埋蔵文化財包蔵地調査カード』には鶴川地区の古墳について記載はない。

上野山の塚が上野山古墳として周知される契機は、管見では昭和48年の山梨県遺跡分布調査である。この調査で上野原町鶴川222番地付近に大小2基の方形古墳があるとし、「上の(野)山古墳」と命名した。当時、町文化財審議会委員の長谷川孟氏は、昭和50年刊行『上野原町誌』の歴史編を執筆した中で、上野山古墳を郡内地方で唯一現存する積石塚であるとし、大変貴重な文化財と評価した。これを受け、町は昭和50年代に大型の塚を「上野山方形積石塚」として指定予定文化財(考古)に登録した。塚の土地所有者に発掘調査を打診したこともあったが、結局未調査のまま経過した。この間、町が発行した各種の刊行物や小学校の社会科副読本、史跡案内板で「鶴川・上野山の積石塚」などと紹介されてきた。



文化3年甲州都留郡鶴川村絵図（部分） 都留市教育委員会ミュージアム都留所蔵

▲鶴川宿（画面中央）の上に描かれた畑一帯が、塚のある上野山地域である。



鶴川・上野山地域の航空写真 昭和23年（1948）3月31日撮影／国土地理院ウェブサイトより

▲写真は昭和23年3月撮影。この年9月から上野山地域で大規模な開田工事が行われた。地元によると当地域には畑の石を集めた石塚が散在していたというのが、写真では今回調査した塚（矢印）のみ確認できる。

(4) 調査にいたる経緯と方法

平成 29 年に市教育委員会は文化財保護審議会の意見を受け、上野山古墳といわれる塚の確認調査について土地所有者や山梨県教育委員会学術文化財課・有識者と検討を始め、平成 30 年度から塚の性格や構造を確認するための試掘調査を実施することになった。調査は、末木健氏（県考古学協会々長）、土生田純之氏（専修大学教授）の指導を受けて社会教育課の文化財担当者が行い、実施時期は周囲の畑耕作に支障がない冬期とした。

初年度の調査では、古墳石室が発見される可能性も考慮して試掘溝を塚の南側面に選定し、遺構・遺物に注意しながら人力で掘り下げた。しかし、分厚い土礫に阻まれて調査が難航したため、土嚢で試掘溝を一旦埋め戻し、再調査に備えることになった。翌年度の再調査では試掘溝の範囲を幅 2m・長さ 7m とし、クワやツルハシで石を掘り出しながら、断面を斜めに掘削して土礫の崩落を防いだ。この結果、塚の核となる石積みと袖石を確認し、塚の縁辺部で地山面を検出した。しかし、この段階で古墳特有の遺構（石室・周溝）や遺物が見つからなかったうえ、石積が崩落する恐れがあったため掘り下げを終了し、試掘溝を土礫で埋め戻した。翌年度に塚の地形測量を実施し、すべての現地調査を終了した。調査の過程は次のとおり。

年度	調査内容
平成 30 (2018)	塚南面で試掘溝 4m ² （幅 1m × 長さ 4m）調査。基準点測量。
令和元 (2019)	前年度の試掘溝を 14m ² （幅 2m × 長さ 7m）に拡張調査。
令和 2 (2020)	地形測量。

(5) 試掘調査

① 塚の現状

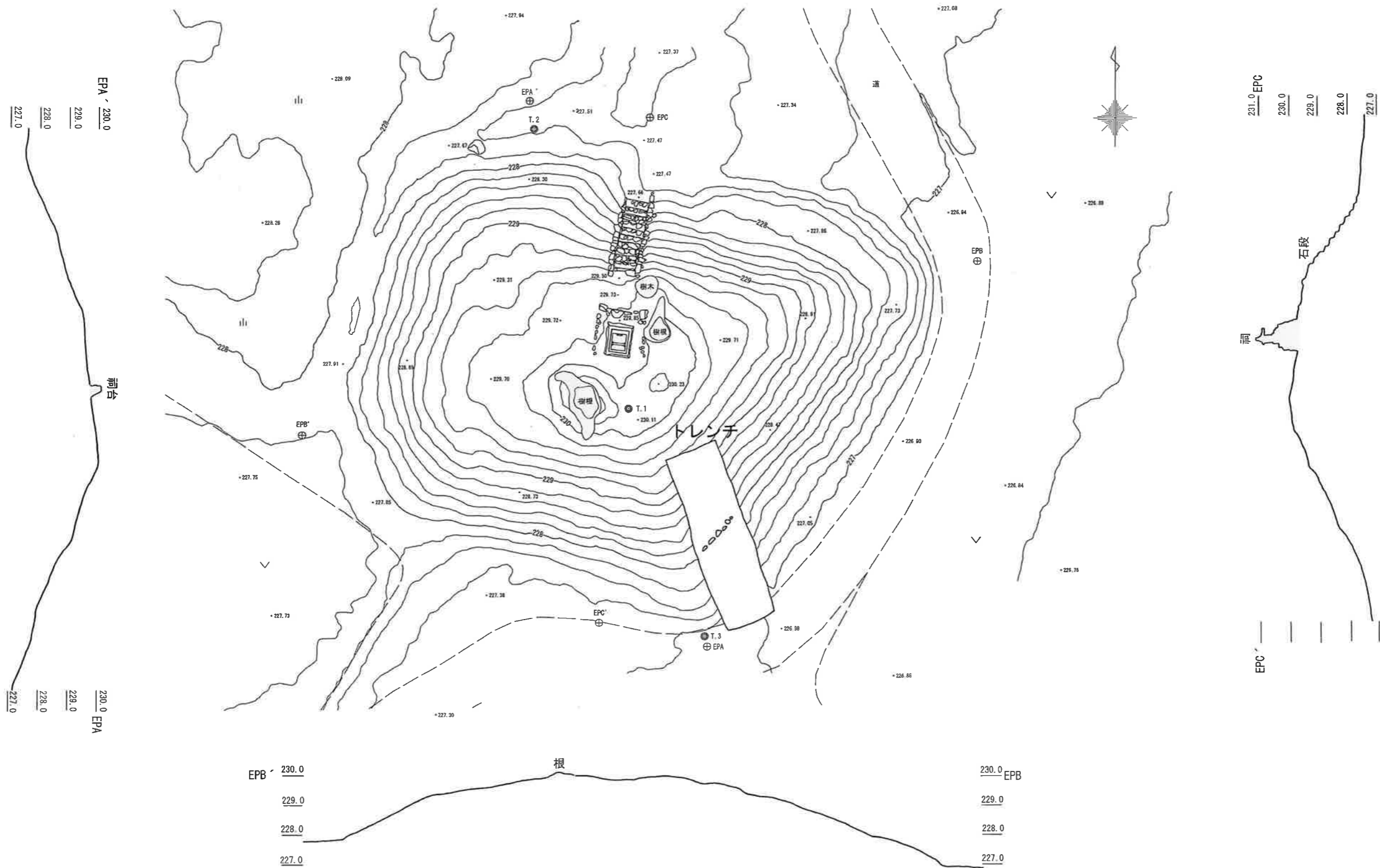
塚の表面は雑多な石で覆われる。塚上に石祠「お稲荷様」と石段が設けられ、土地所有者の話では、明治時代中頃に家の守り神として曾祖父が祠を建て、平成に現在のものに建て替えた。塚は近年まで草木で覆われ鬱蒼としていたが、現在はサクラ 1 本を残して伐採され、ツツジ等が植栽されている。

② 塚の形状と規模（次頁に図）

地形測量の結果、塚の平面は不整形で、規模は東西 17.5m、南北 14.5m であった。一帯は鶴川に向かってわずかに傾斜し、地表と塚頂部の比高差は東側で 3.3m、西側で 2.2m を測る。塚頂部の標高は 230.2m である。

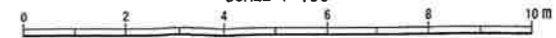
③ 調査結果

調査の結果、築造時のものと思われる石積と袖石を確認した。**石積**は大小の石が一様に密集し、間層は見られない。石は乱雑に積まれ、隙間があり崩れやすい。**袖石**は石積端部（塚頂部から約 6m 南側）に位置し、人頭大の石が 2 段に積まれ、直線的に配されていた。目地は不揃いで、背面の控え積みはなかった。袖石の前面は陶磁器片が混じる分厚い土礫混合層で覆われ、塚の崩落土や周囲から持ち込まれた客土と考えられる。**塚の石材**は、砂岩や片岩など近隣で普通に見られる石である。**出土遺物**は表土や客土で検出され、現代ゴミ、近世以降の陶磁器やガラス瓶、縄文式土器や石鏃の破片が混在していた。石積から遺物は検出されなかった。陶磁器はすべて破片で、江戸時代前期の白磁小坏や志野皿等が古く、多くは江戸時代後期から末期及び明治時代以降の染付碗・皿・すり鉢・御神酒徳利・仏飯器等の日用雑器である。



上野山の塚平面図・断面図

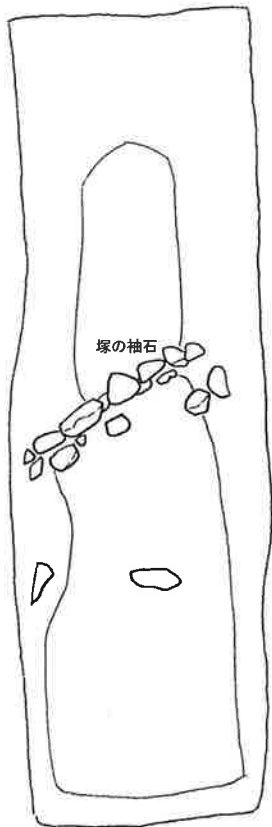
SCALE 1:150



T.1 ⊙

SPA

トレンチ

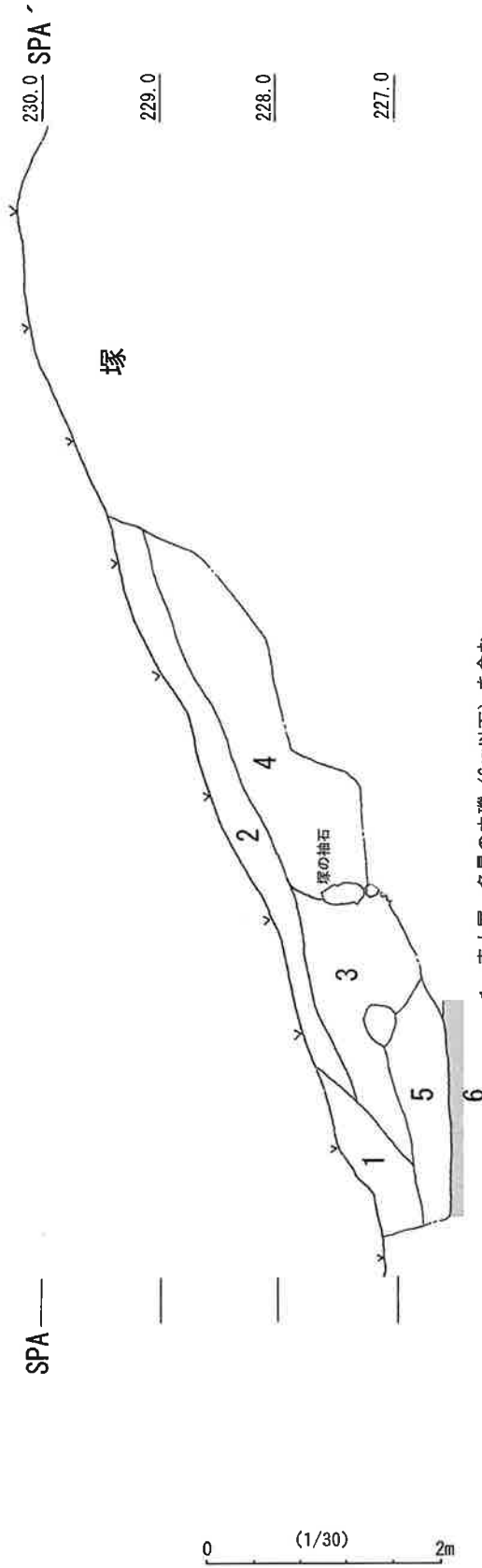


T.3 ⊙

SPA

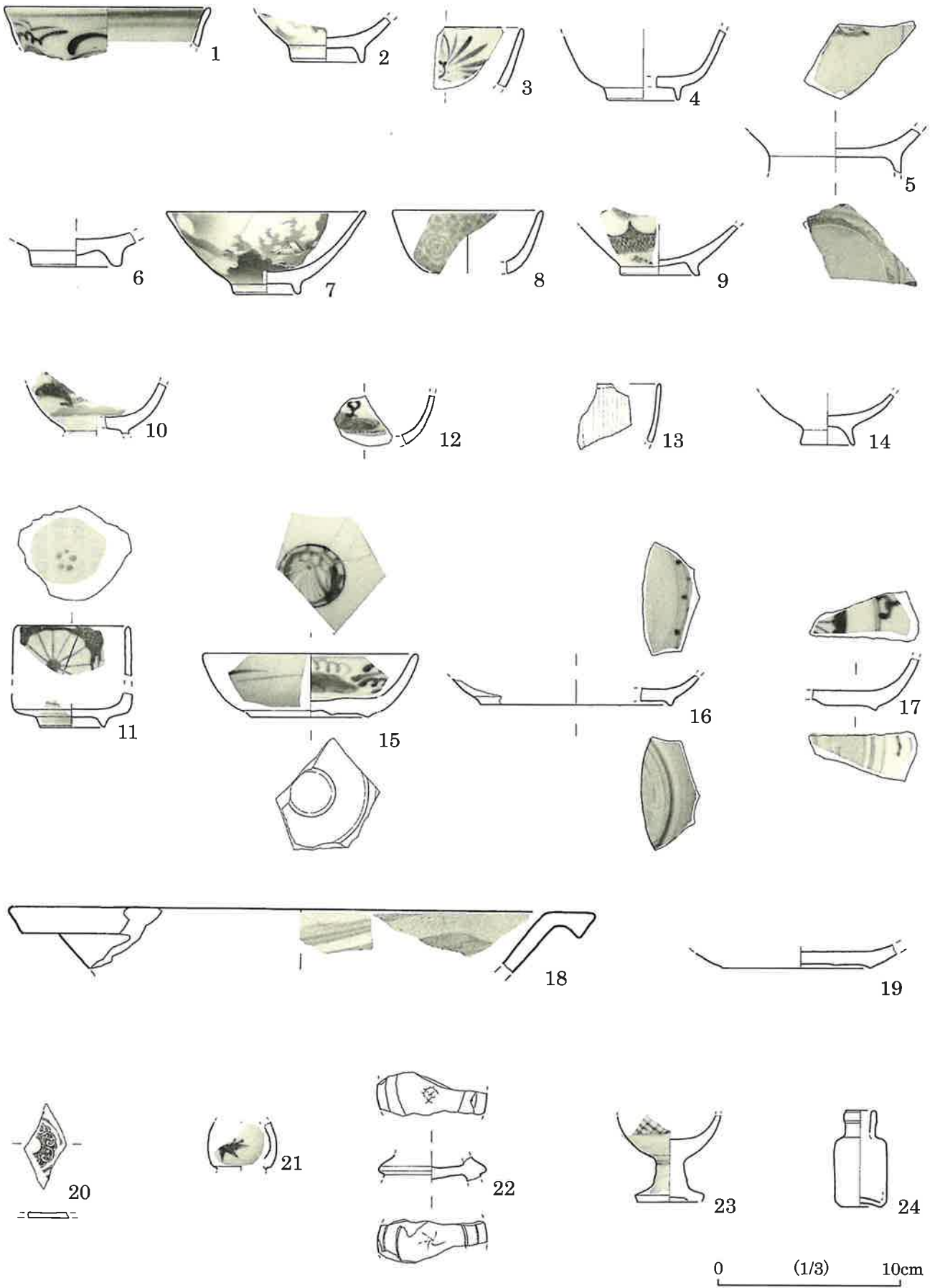


袖石立面図



- 1 表土層。多量の中礫 (6cm以下) を含む。
- 2 表土層。多量の中・大礫を含む。
- 3 土礫混合の客土層。多量の中・大礫に現代ゴミ (缶・プラスチック等) や陶磁器片が散発的に混じる。
- 4 塚の中核を構成する積石。中・大礫が密集する。遺物なし。
- 5 多量の礫を含む礫質土層。旧地表面。
- 6 砂質の地山。中・大礫を含む。

トレンチ平面図・土層断面図



出土遺物

0 (1/3) 10cm

法量（ ）は推定値である。備考中の数字は遺物の推定年代（世紀）である。

No	種類	器種・器形	口径	底径	器高	胎土色調	釉薬種別	生産地	備考
1	磁器	碗（端反）	(11.4)	-	-	白	染付	瀬戸	19前～中
2	磁器	碗	-	4.0	-	白	染付	瀬戸か	霞状文様 19～
3	磁器	碗（丸）	-	-	-	白	染付	瀬戸	19中～後
4	磁器	碗	-	(3.9)	-	白	鉄釉	肥前	17か
5	磁器	碗（広東）	-	(7.3)	-	灰白	染付	肥前	18末～19前
6	陶器	碗	-	4.9	-	灰黄	黄釉	瀬戸・美濃	18中～後
7	磁器	碗	11.2	3.8	4.6	白	染付	瀬戸・美濃か	19後～
8	磁器	碗（半球）	8.1	-	-	白	染付	肥前	18中～後
9	磁器	碗	-	4.6	-	白	染付	瀬戸・美濃	19後～
10	磁器	碗	-	-	-	白	染付	肥前	18前～中
11	磁器	碗（筒）	(6.4)	3.7	(5.9)	黄灰	染付	瀬戸	19前～中
12	磁器	杯	-	-	-	白	染付	-	19前～中
13	磁器	杯	-	-	-	白	白磁	肥前	ヘラ彫り文様 17前
14	磁器	杯	-	3.1	3.0	白	白磁	瀬戸・美濃	19中～
15	磁器	皿	(12.6)	(7.2)	4.0	白	染付	瀬戸	蛇ノ目凹形高台 19前～中
16	磁器	皿	-	(10.5)	-	白	染付	瀬戸	亀甲文 蛇ノ目凹形高台 19前～中
17	磁器	皿	-	-	-	白	染付	瀬戸	蛇ノ目凹形高台 19前～中
18	陶器	皿	(22.0)	-	-	黄灰	灰釉	瀬戸	呉須絵 19前～中
19	陶器	皿	(7.3)	-	-	灰白	長石釉	瀬戸・美濃	志野焼 17前
20	磁器	皿	-	-	-	白	染付	中国	16末～17前
21	磁器	御神酒徳利（小瓶）	-	-	-	白	染付	瀬戸か	19前～中
22	磁器	御神酒徳利（瓶子）	-	(5.8)	-	白	染付	肥前	18後～19前
23	磁器	仏飯器	-	4.0	-	白	染付	肥前	18後～
24	ガラス	瓶	1.9	2.7	5.2	淡緑色透明。型成形・合わせガラス。内面に薄い膜(灰黄色)付着。近代。			

出土遺物一覧表

(6) 地元の聞き取り

試掘調査の期間中、現場を訪れた7名の住民（近所に住む60歳から80歳代の男性）に聞いたところでは、上野山古墳と呼ばれる塚は田畑の石を集めた「石塚」で、かつては同様の石塚が一带に散在していたという。今回調査した塚が最大規模で、他の石塚は田畑の開墾でほとんど消滅したという。また、この地域で古墳を裏付ける石室が発見されたなどの話や伝承もない。

一方、試掘調査を実施した塚の土地所有者（昭和30年生まれの男性）にも何度か話を伺うことができた。住居は旧鶴川宿の旧家で、戦後まで養蚕や機織りを生業とする農家であった。同氏の話は以下にまとめられるが、塚の由来は分からないという。

- ・ 明治の中頃、私の曾祖父が家の守り神として塚の上に祠を建てた。祠は今より大きな木製で、自宅のお稲荷様を移築したのだと思う。祖父は生糸商人で、かつては上野山を見渡して「一带をすべて私の土地にしてみせる」と豪語したほど羽振りが良かった。
- ・ 私が子どもの頃（昭和30年代）、塚の端に高さ50cmくらいの石垣があったのを覚えている。
- ・ （試掘地点に立って指さしながら）石塚は他に3箇所あった。鶴川神社裏のお墓の所は小さかった。小屋（中央自動車方面）の右向こうには、神社裏の塚と同じくらいの大きさで饅頭型の塚があった。お墓（中央自動車方面）の手前にあった塚は、ここより1/3くらいの大きさだった。
- ・ 畑の石は近くのザク（崖）に棄てるのが合理的だが、小さい石は塚にした方が良かったのかもしれない。

(7) まとめ

積石塚古墳の可能性が指摘されていた上野山古墳といわれる塚は、このたび初めて実施した試掘調査により、築造時の石積と袖石の周囲を後世に持ち込まれた土礫が分厚く覆っている構造を確認した。後世の土礫は塚をいびつな形としているが、もとの平面は袖石の状況などから方形基調であったと推測される。塚の高さは頂上にある祠の位置のまま、ほぼ変わっていないものと推測される。

塚の核となる石積は大小の石が不規則に入り交じり、古墳の墳丘に通常見られるような企画的築造の呈をなしていない。また、部分的な調査だが、古墳特有の石室や周溝、遺物も見当たらない。以上の諸結果や、山梨県内における積石塚古墳の分布が甲府盆地北東部に偏在していることを勘案すると、塚はこれまで言われてきた積石塚古墳ではなく、古墳の可能性も極めて低いものと判断される。

塚は、土地所有者の話から明治時代中頃に頂上の祠や石段が整備されたようだが、これ以前に塚の存在を示す史料は未確認である。石積からの遺物もなく、塚の築造時期や目的は不明である。なお、塚を覆う土に江戸時代の陶磁器が多く含まれていることや、付近の小塚が近世の石造物と共存して立地することから、塚の築造が江戸時代までさかのぼる可能性は考えられる。

今後、塚の解明にあたっては、多大な労力をかけた築造の目的と時期が焦点となる。そのためには「石塚」を生み出した礫質土壌の歴史的・文化的風土や、塚上の祠「お稲荷様」からうかがえる民間信仰のあり方など多角的な視点が必要である。一方、市内では「上野山古墳」や「積石塚」の呼び名が定着していることから、調査の結果を市民に丁寧に説明していく必要がある。



上野山の塚（矢印）遠景（東の鶴川対岸から）



上野山の塚（矢印）遠景（北からドローン撮影）



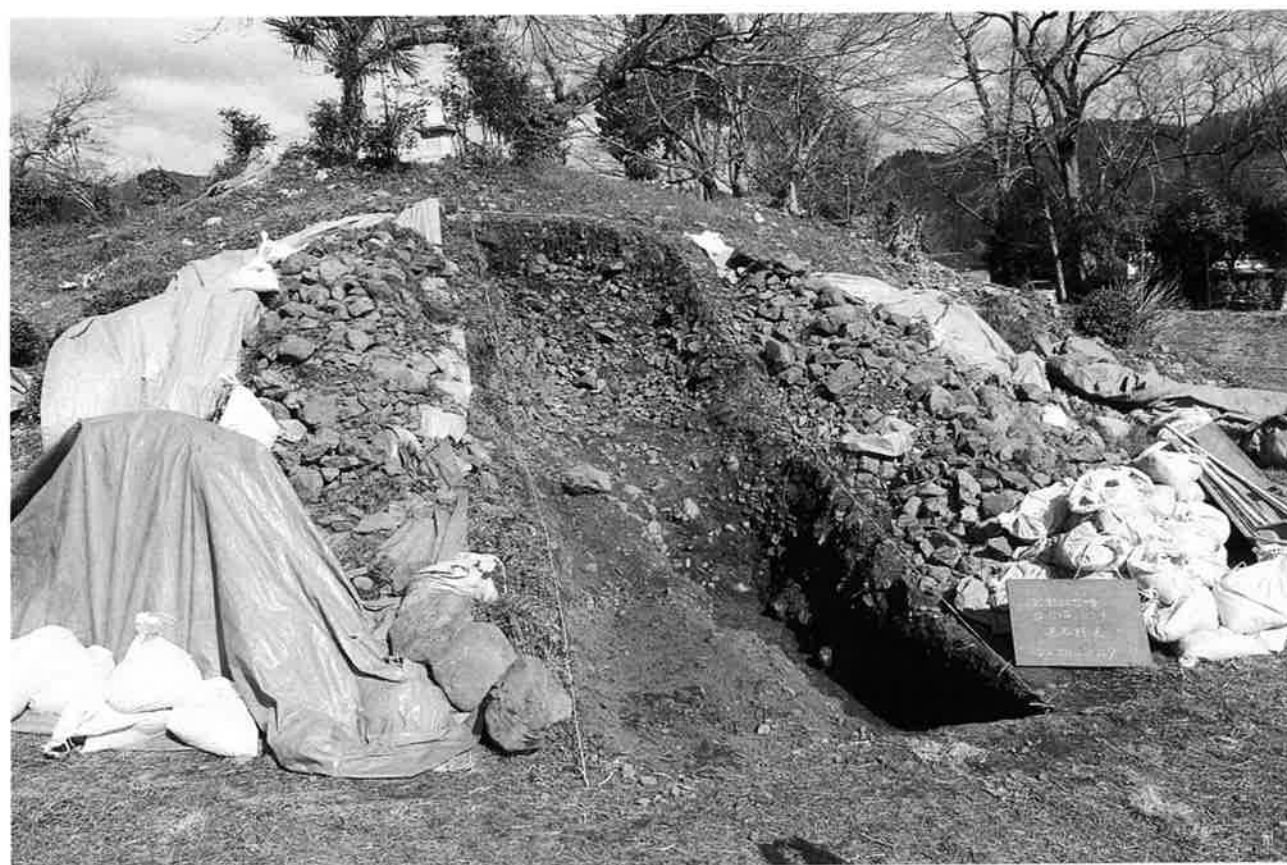
上野山の塚 近景（北東から）



上野山の塚全景（東からドローン撮影）



上野山の塚全景（ドローンから俯瞰撮影）



調査地近景（南から）



石積と袖石の検出状況（南東から）



袖石の検出状況（写真にないが、右側にも人頭大の石2個が積まれていた。）



石積状況



調査風景

報告書抄録

ふりがな	やまなしけんうえのはらし しないいせきはつくつちょうさほうこくしょ 4			
書名	山梨県上野原市 市内遺跡発掘調査報告書 4			
シリーズ	上野原市埋蔵文化財調査報告書第 10 集			
編著者名	小西直樹			
編集発行	上野原市教育委員会			
所在地	〒 409-0192 山梨県上野原市上野原 3832 電話 0554-62-3409			
発行日	令和 5 年 (2023) 3 月 15 日			
おもな遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	経緯度
うえのやま つか 上野山の塚 うえのやまこふんぐん (上野山古墳群)	うえのはらしつるかわ 上野原市鶴川 222	19212	4-3	北緯 35° 38' 5" 東経 139° 6' 6"
	調査期間	調査面積	調査原因	種別／主な時代／遺構・遺物
	20190227 ～ 20190325 20200225 ～ 20200317 20210210 ～ 20210212	14㎡	確認調査	塚／近・現代／陶磁器
要約	本書は市内 11 カ所における遺跡確認調査の成果をまとめた。上野山の塚は鶴川の河岸段丘面に位置し、これまで未調査であったが積石塚古墳の可能性が指摘されていた。このうち最大規模 (14 m 四方、高さ 2.3 m) の塚を試掘調査した結果、築造時のものと見られる石積と袖石を確認した。しかし石の積み方は不規則で、古墳を示す遺構・遺物は検出されなかった。このため、古墳といわれていた墳丘は近・現代の塚である可能性が高いものと判断した。			

上野原市埋蔵文化財調査報告書 第 10 集
山梨県上野原市 市内遺跡発掘調査報告書 4

令和 5 年 (2023) 3 月 15 日発行
編集・発行 上野原市教育委員会
